科目名	生活経済学	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			経済学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	Economic Theory on Consumption and Investment	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年
ふりがな	はたけやま あきのぶ	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	畠山 光史	修得単位	2単位
授業のテーマ	マクロ経済水準における消費決定理論・投資決定理論を理解し、批判的に検討します。		
到達目標	学生は、消費および投資決定の諸理論の重要概念および分析手法を習得できる。		
授業概要	本授業では、マクロ・ミクロ経済学で学習した消費および投資について、相互に独立した様々な理論を学習します。具体的には、消費行動・投資行動を説明する諸理論を学習し、現実妥当性を議論します。		
授業計画			
第1回	イントロダクション		
第2回	マクロ経済学からの準備1（ケインズ経済モデルにおける消費の考え方）		
第3回	マクロ経済学からの準備2（ケインズの消費関数）		
第4回	消費関数論争1（クズネッツによる問題提起）		
第5回	消費関数論争2（相対所得仮説）		
第6回	消費関数論争3（恒常所得仮説）		
第7回	消費関数論争4（ライフサイクル仮説）		
第8回	前半のまとめ		
第9回	マクロ経済学からの準備3（現在価値）		
第10回	マクロ経済学からの準備4（投資の限界効率）		
第11回	投資理論1（ケインズの投資関数）		
第12回	投資理論2（加速度原理）		
第13回	投資理論3（新古典派の投資理論）		
第14回	投資理論4（トービンのq理論）		
第15回	総まとめ		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	授業後には、授業内容を復習し、重要概念および分析手法を再確認してください（1.5時間程度）。		
履修条件 受講のルール	マクロ経済学I・IIおよびミクロ経済学I・IIの単位修得を前提とします。		
テキスト	指定しません。		
参考文献・資料	吉川洋 「マクロ経済学（第4版）」 岩波書店（2017） ブランチャール 「マクロ経済学（上）（下）」 東洋経済新報社（1999, 2000）など		
成績評価の方法	小テスト(20%), 定期試験(80%) ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・遅刻は欠席と同等に扱います。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。		
オフィスアワー	月曜日4限、水曜日4限とします。		

成績評価基準	2016年以降に入学した学生：秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 2015年以前に入学した学生：優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	経済理論系の科目は、授業後の復習を行うとともにインターネット、テレビ、新聞、雑誌等で日本経済および世界経済のマクロ経済動向を積極的に把握するように努めることが重要です。